

高等学校での学校臨床心理士による教師と学校への コンサルテーションに関する臨床心理学的研究

中村(金子), 美穂

<https://hdl.handle.net/2324/1959064>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (心理学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

| | | | |
|--------|--|-----------|--|
| 氏名 | 中村(金子) 美穂 | | |
| 論文名 | 高等学校での学校臨床心理士による教師と学校へのコンサルテーションに関する臨床心理学的研究 | | |
| 論文調査委員 | 主査 九州大学大学院人間環境学研究院 | 准教授 古賀 聡 | |
| | 副査 九州大学大学院人間環境学研究院 | 教授 増田 健太郎 | |
| | 副査 九州大学大学院人間環境学研究院 | 准教授 金子 周平 | |
| | 副査 九州大学大学院人間環境学研究院 | 教授 大場 信恵 | |

論文審査の結果の要旨

本論は、高等学校（以下、高校）における生徒のさまざまな水準の問題状況に応じて、学校臨床心理士が教師個人及び教師集団、学校組織に対して行うコンサルテーションのあり方について検討する臨床心理学的研究である。近年、高校生の不登校や退学、自殺などの心理的問題の深刻化が指摘され、高校における心理支援の充実が喫緊の課題である。生徒を支える教師と学校へのアプローチとして学校臨床心理士によるコンサルテーションがある。制度上の問題もあり、高校におけるスクールカウンセリングのような心理支援の資源は極めて少ない。そこで、学校臨床心理士が教師、学校組織へ積極的に働きかけるコンサルテーション活動のあり方と学校臨床心理士に期待される役割と機能について探索的に検討する必要があると筆者は考えた。本研究の目的は学校臨床心理士による教師個人及び教師集団、学校組織へのコンサルテーションの在り方や実践上の工夫、高校教師がコンサルテーションに期待する学校臨床心理士の役割と機能を明らかにすることである。

本論文の構成は以下の通りである。まず、学校コンサルテーションに関する文献研究（第1章）を踏まえて、筆者の高校におけるコンサルテーション実践事例（第2章）をもとに生成した研究仮説を論じた。つぎに生成された研究仮説にもとづき、教師を対象とした調査研究（第3章）及び事例研究（第4章、第7章）、ロールプレイングなどのアクションメソッドを用いた実践研究（第5章、第6章）を実施した。第8章では、前章までの実証研究、実践研究の結果をまとめた。学校臨床心理士は生徒の問題状況やその水準をアセスメントし、教師集団や学校組織の特性に配慮しながら教師と学校へのコンサルテーション活動を臨機応変に組み立てる必要性について論じた。さらには、「学校臨床心理士と教師及び学校との協働的なコンサルテーション」モデルを展望して提示し、本研究の限界と課題についても考察した。

論文調査会においては、調査研究と実践研究から導き出された知見の繋がりや学校臨床心理士が行うコンサルテーションの定義について議論が行われた。特に、研修場面を通しての教職員への介入と特定の事例をもとに助言等を行う介入の関係について議論が行われた。公認心理師制度によって、今後は、問題発生後の個別的な対応に限定されない多様な支援活動が心理専門職には求められることが予想される。学校現場のニーズについての調査や、実際の危機介入事例をもとにした本論文の学術的、社会的意義は高いと考えられる。

よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。